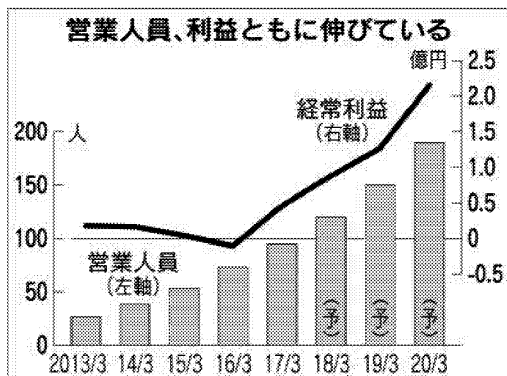


2年後預かり資産2倍に

個人の資産形成を支援する大手独立系金融アドバイザー（IFA）のアイ・パートナーズフィナンシャル（横浜市）は営業体制を強化する。2020年3月期までに人員を6割増やし、新規顧客を開拓。顧客の預かり資産は2倍の2000億円に伸ばす方針だ。東京証券取引所への株式上場の準備にもこのほど着手し、一層の事業拡大を目指す。

▼IFA 株式や債券、投資信託など様々な金融商品の販売を通じ、個人の人生設計に合わせた資産形成を支援する。複数の金融機関の商品を取り扱い、中立的な立場で助言するほか、証券会社などのような営業ノルマがないため、顧客との利益相反が起こりにくいとされる。金融庁が証券業界に「顧客本位の業務運営」を求め、IFAの育成を一つの方策として示したことなどをきっかけに、IFAの注目度が高まっている。



営業人員を6割増 来月、銀座に店舗開業

営業人員は現在の約120人から、20年3月期までに6割増の約190人に増やす計画だ。IFAには証券業界からの転職組も多く、こうした人材を中心に取り込んでいく。

営業拠点も現在、全国13カ所であり、4月には東銀座店を開業する予定だ。今後も人員増に合わせ、新店開業や既存店の移転・拡張などを順次行っていく。

営業体制の強化を通じて、顧客の預かり資産は現在の約1000億円から、20年3月期には2000億円に倍増させる。東証への新規株式公開（IPO）を目指し、このほど上場準備も始めた。19年3月期には社外取締役制度を導入するなめ、「内部管理体制を」として、

営業体制の強化を通じて、顧客の預かり資産は現在の約1000億円から、20年3月期には2000億円に倍増させる。東証への新規株式公開（IPO）を目指し、このほど上場準備も始めた。19年3月期には社外取締役制度を導入するなめ、「内部管理体制を」として、

営業体制の強化を通じて、顧客の預かり資産は現在の約1000億円から、20年3月期には2000億円に倍増させる。東証への新規株式公開（IPO）を目指し、このほど上場準備も始めた。19年3月期には社外取締役制度を導入するなめ、「内部管理体制を」として、



田中社長は「上場によってIFAの認知度を高めていきたい」と意気込む